

ピックアップ

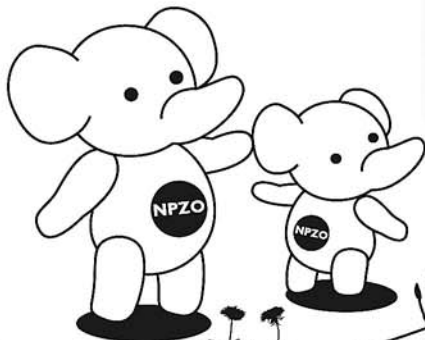
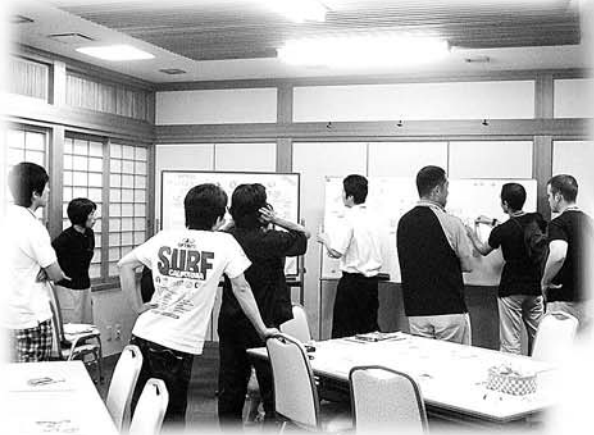
地域とつながり 若者が活動!

～県北4地区の若者会議が実践～

- 元気のみなもと
「秋田県立小坂高等学校 電気部」
- 市民が盛り上げる鹿角国体
- 事業報告書等の提出をお忘れなく
- 地域の元気創造
県北地域の団体・個人を表彰!
- 情報あらかると
- 2010年度アンケート結果

んすだ

3
2011



地域とつながり若者が活動!

若者会議(ヤングミッション)※が今年度は県北4地区で行われました。各地区4~5回のワークショップを重ね、実践活動のためのフォローアップ、そして実践活動の実施。若者会議に参加したメンバーが地元を見つめ、繰り返し意見を交わしあい、導き出した実践活動には、それぞれの特徴やメンバーの思いがにじみ出ています。そして、地元へのつながりを深めたメンバーが一歩ずつ更なる活動を歩み出しています。実践活動について、それまでの経緯を詳しく知りたい方はHPをご覧ください。(http://blog.canpan.info/npo-center)

※若者会議(ヤングミッション)とは…地域の若者が集まり、地域の課題を柔軟な発想で考え、行動に移すことによって、若者の社会参加を促すのが目的。地域の若者が、地域の現状について意見を出し、目指す地域の理想像について話し合うワークショップを行い、話し合ったテーマに沿って実践行動をするというものです。



上小阿仁村 若者会議

上小阿仁村を発信! 特産品で創作グランプリ



メンバーはワークショップを重ね、「上小阿仁を元気にしたい」「村内在住の若者へのアピール」との思いを込めたイベント「おいしい☆かみこあに創作グランプリ」を「地域ふれあいデー」(8月29日、主催/上小阿仁村社会福祉協議会)の中で開催。メンバーが3チームに分かれ、村の特産品を使った創作料理を来場者に振舞いました。当日は用意した3品各100食の試食が5分足らずで完売するという盛況ぶりでした。創作メニュー「ほおずき大福」「ほおずきカレー」グランプリは「アゲ揚げたんぼ」

●メンバーの声(ふりかえりより)

「始めは面倒くさいと思っていたが、自分の活性化になった。」「集まった村の方の元気の良さに圧倒された。」「仕事終わりの会議で正直きつい面があったが、終わってみれば充実していた。」「短時間でも、やったことがなくても、みんなやれば出来るんだ。」

●更なる活動!

道の駅かみこあにて行われた「雪まつり」(2月5日、主催/上小阿仁村)に参加。

大館市の「アメッコ市」(2月12日)に自主参加。「アゲ揚げたんぼ」を出店して話題となりました。400食完売!

地域の人を招いての「ほおずき大福作り教室」を開催。



鹿角市 若者会議

地元の人が発信する 観光物産館をめざして



メンバーはワークショップから、鹿角市の良さを「十和田八幡平国立公園があり、温泉に恵まれた観光のまち」と確認しました。その中核を担う道の駅「鹿角観光ふるさと館『あんたらあ』」には、地元産直品や土産品販売のほか、手作り体験や日本三大ばやしのひとつである「花輪ばやし」の屋台が展示されていますが、メンバーの中には体験や展示見学の経験のない人がいることがわかりました。そこで、『あんたらあ』ならびに(社)十和田八幡平観光物産協会の理解を得て、2月26日、地元の人が観光客に自信を持って紹介できる観光物産館のアイデアを生み出すためのアンケートを実施。若者会議メンバーや地元の人17名が回答しました。それを踏まえた資料を『あんたらあ』へ提案する予定です。



三種町 若者会議

特産品“じゅんさい”の 新レシピが大好評



メンバーは町の特産品であるじゅんさいを多くの人に広めることにより町をピーアールしようと、実践活動はじゅんさいレシピの考案。レシピは一般公募し、その中から3品、じゅんさいの新レシピ「しょうゆ漬け」「ホットケーキ」「つみれスープ」を町民祭(10月23日)で振舞いました。その際のアンケート(幼児～60代の71人回答)によると、手軽さ美味しさについて各レシピともに好評でした。

出来上がった「じゅんさいレシピ集」(17レシピ集録)は、今後の地域活性化に役立ててもらいたいというメンバーの思いから直売所や町役場に贈呈されました。

●メンバーの声(ふりかえりより)

「知らなかった地元の現状(空き家問題、耕作放棄地の活

用など)を知ることができた。自分の住んでいる町を良くするためには知ることから。」「上岩川の大学生受け入れ、NPO法人一里塚の取り組み、観光協会のHPなど積極的に頑張っている人が多いと思った。」「一人では思いつかないこともみんなが寄せれば新しいアイデアが出るんだ。」「このメンバーの活動力はスゴイ。」

●更なる活動!

三種町観光協会からの声がかけて、「みたねグルメin森岳温泉」(2月11・12日)に参加。新たに考案したメニュー「じゅんさいしるこ」を提供しました。

北秋田市 若者会議

市民運動会が 世代を超えた交流を生む



メンバーは現状把握から問題解決策を話し合い、「自分たちができること」として「市民運動会」を実施。北秋田市は合併前の旧4町でそれぞれ運動会を開催しており、その復活の足がかりであり、「市全体での世代交流できる場所づくりと、次につなげていくためのリーダーの育成・若者が自分たちのまちを見直し、行動を起こしてもらうためのきっかけづくり」を目的とし、継続性を強く意識しています。

運動会まで1ヶ月ちょっとという短いなか、メンバーは毎週集まり準備を進めました。11月7日、北欧の杜・大芝生広場で実施された運動会には、雨模様にも係らず、子どもからお年寄りまで約70人が参加。競技は、50m走、持久走、二人三脚、縄なし競争、障害物競走、綱引き、宝探し、借り物競走、玉入れ競走、全員リレーと多種多様。世代を超え



た交流ができ、来年への大きな活力となる反響でした。

●メンバーの声(ふりかえりより)

「運動会について『良かった』『楽しかった』『参加したかった』『来年は協力したい』との声が多く、自分たちの意図するメッセージが伝わったかな。」「他のメンバーの意欲的な姿勢につられて自分も思った以上に行動できた。みんなの行動力はとても勉強になった。」「これを機会に何かをやりたい。」

●更なる活動!

北秋田市の米内沢児童公園で行われた「雪だるま仮装コンテスト」(2月5日、主催/あそび体験ボランティア「この指と～まれ!」)に参加。



昨年実施した地区(能代市、大館市)のその後—

能代市若者会議では、昨年度「キャンドルふうパーティ」を開催。そのメンバーが、音楽を楽しむ交流を図る能代DJイベント「能代NIGHT GROOVE」を行っています。

大館市若者会議では、昨年度2班に分かれて「2010 Attract in Odate」(ファッションショーとミュージックフェス)、地元の店舗紹介冊子「しるべ～大館再発見」を作成。メンバーがそれぞれのつながりの中から、「2010大館コレクション in Winter」(ファッションショーとトークショー)を開催。また、冊子班メンバーの一人がゼロダテアートセンターの活動に参加し、街歩きマップ「わたし視線の大館マップ」作りに奮闘しました。

元気のミナモト!

地域の人と学校等が積極的に係ることで、子どもたちの“生きる力”を育むとともに、地域に活力が生まれています。



習得した知識と技術を活かして おもちゃ修理ボランティア

秋田県立小坂高等学校の電気部では、地域の保育園「小坂マリア園」の園児たちのおもちゃ修理ボランティアを行っています。習得した知識と技術を活かして地域に貢献するとともに、エコ活動にもつながっています。5回目となる今回は昨年12月中旬に園に呼びかけ、修理が必要として寄せられた11個のおもちゃを電気部のみなさんが放課後にコツコツと修理しました。

2月28日、修理したおもちゃを持って1・2年生7人が園を訪問。「おもちゃを大切にしよう」という願いを込めた生徒たちの手作り紙芝居を披露した後、直ったおもちゃを園児たちに直接手渡しました。お礼として園児たちから手作りのメダルをプレゼントされた生徒たちには思わず笑顔があふれていました。電気部の澤口豪さん（部長、2年）は「緊張します。渡すまでは不安だったけど、笑顔で受け取ってくれてうれしかった！」と手渡したときの感想を話します。難しい修理では数日かかった物もあり、みんなで分担しながら協力して直しました。さらに、授業では習わ

ない技術も身につけることができました。また、園児たちが静かに見入っていた紙芝居「びっぐぼすからのおくりもの」は、完成までに2週間近くかかったということで、この活動は貴重な経験となっています。

電気部では、ワールドソーラーバイシクルレース、ものづくりやロボットコンテストに参加しながら、地域に貢献する活動にも積極的に取り組んでいます。小学校の稲作体験への協力として太陽光エネルギーを活用した「エコかし」製作を手伝っているほか、大館市の幼稚園や由利本荘市の小学校へ「ドラえもん型ベルマーク回収箱」を製作し寄贈しました。地域の産業と福祉の祭典「かづの元気フェスタ」では、楽しく体験できる手作りのイライラ棒やクレーンキャッチャー、ソーラーパネル付自転車を紹介して地域との交流を図っています。

小坂高等学校「電気部」

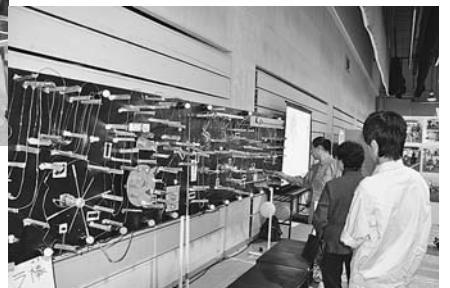
☎TEL.0186-29-3065（顧問／近藤哲也）



電気部1・2年生のみなさん



「チャリンコトレーナー」と題して、ソーラーパネル付自転車を楽しく試乗（上）
地域の人がイライラ棒に挑戦（右）



市民が盛り上げる鹿角国体

2月12日～15日、「あきた鹿角国体2011」が鹿角市花輪スキー場を主会場に開催されました。鹿角市では、市民みんなで国体を盛り上げようと、応援用の小旗作り、入賞者に贈る人形作り、選手らを歓迎する雪像作りなど準備段階から多くの市民が係わり合う取り組みを進めてきました。

大会期間中は、市内外から73人ものボランティアスタッフ（サポーター）が、会場案内や観光案内、接待係、写真係などに携わったほか、高校生ボランティアも加わり、会場は活気に満ちていました。

案内所ではサポーターの渡辺博光さんと柳沢愛子さんが、高校生ボランティアとともに訪れる方々を“にっこり”と出迎えていました。普段から“まちの案内人”として活動しているお二人は、国体を盛り上げたいと進んで参加しました。渡辺さんによると、北海道から訪れたお客さんに「鹿角の雪はいいね!」と褒められたそうです。雪といっても地域によって味わいが違うことから「四季折々の鹿角を楽しんで

ほしい」と誇りをもって魅力を伝えています。

鹿角市では、市民と行政とが共働して住みよい地域社会の確立を目指していることから、この国体でのボランティアの機運を今後の地域づくりにつなげていきたいと考えています。



○事業報告書等の提出をお忘れなく○

多くのNPO法人が、3月末を事業年度としています。年度末には事業報告書等を所轄庁（秋田県または内閣府）に提出する義務が特定非営利活動促進法(NPO法)に定められています。

<所轄庁への提出書類>

決算日(年度末)から3ヶ月以内に提出!

①事業報告書等提出書 ②事業報告書 ③財産目録 ④貸借対照表 ⑤収支計算書 ⑥収支計算書※ ⑥前年に役員であったことがある全員の名簿及びそのうち前年に報酬を受けたことのある者 全員の名簿 ⑦社員のうち10人以上の者の名簿

☆前年(前事業年度)に定款変更を行った法人は、①～⑦に加えて⑧～⑩の書類を提出してください。

⑧定款 ⑨定款変更に係る認証書類の写し ⑩定款変更に係る登記書類の写し

詳しくは、秋田県のホームページをご覧ください。

美の国あきたホーム > くらし・環境 > NPO・県民運動 > NPO(NPO法人について)

定款の記載事項に変更の場合は 法務局への登記もお忘れなく!



下記の変更については、総会において議決された後、法務局への登記も必要です。登記を怠ると罰則を受けてしまいます。

・役員変更(住所移動)(役員重任または辞任)(理事全員重任)・法人名称変更・目的及び事業変更・資本の総額変更
・主たる事務所移転(管轄登記所外、所内移転)・NPO法人解散及び精算人就任・NPO法人精算結了
法務局へ届け出る申請書の記載例は法務局ホームページに詳しく記載されています。(http://www.moj.go.jp → 右側「行政手続きの案内」→「商業・法人登記関連手続」)

※ 2010年7月に策定された「NPO法人会計基準」では収支計算書にあたるものとして「活動計算書」を提示しています。詳しくは「みんなで使おう! NPO法人の会計基準」(http://npokaikai.info/)をご覧ください。

秋田県では、地域づくり活動に取り組む機運の醸成、活動の普及・拡大を図るため、自主的・主体的な地域づくりに取り組んでいる団体や個人の方を、地域ごとに募集、表彰しています。(各地域振興局で実施)

鹿角・小坂地域

元気なふるさと鹿角・小坂いきいき地域づくり活動表彰の受賞団体

●秋田県立小坂高等学校 電気部

地元保育園の子どもたちの壊れたおもちゃの修理などにより、子どもたちへ「ものづくり」や「エコ活動」への取り組みについて伝えています。学んだ技術を活かして地域へ貢献しています。(4ページをご覧ください。)

●浅石 シガ

素材の特色を生かした「山菜料理」「漬物」「秋田ふき」「なっつ」など、地元の食材の特色を生かした鹿角の食と文化の伝承に努めています。「鹿角文化こだわり食育ボランティア」として多方面で講師を務めています。

●久保田団地自治会(会長／大澤勇)

昭和39年の造成により、16世帯で始まった久保田団地自治会は、住みよい団地づくりを目指しての活動を長年にわたり行っています。団地内の街灯を青色防犯灯に切り替え、住民の防犯意識を高めています。

●花輪下夕町農村婦人部(会長／西村リヨ)

花輪下夕町地区の県道「田山花輪線」において、花壇の管理を行っています。婦人部を中心に、下夕町親睦会や自治会員の協力により27年間にわたり活動を続けています。

●松館安全見まもり隊(隊長／戸館忠)

松館地区の子どもたちの下校の安全を確保するため、隊員12名の皆さんが同地区の巡回活動を実施しています。見まもり隊は子どもたちの身近な存在になっています。

大館・北秋田地域

元気な大館・北秋田地域づくり活動表彰の受賞団体

●大館地区がん患者友の会「虹の会」

(代表／土門昭夫)

患者同士の相互交流と情報交換、がん予防と早期発見に向けた啓発活動、医療ケアの向上にむけた提案や活動、がん



鹿角・小坂いきいき地域づくり活動表彰を受けた皆さん
(2月表彰式実施)

患者の生活の質の向上と社会復帰などを目的に平成21年6月発足。月例会(第1水曜日15時より・会員以外でも参加可能)や「がんサロン」(第3水曜日13時より)を大館市立総合病院で行っています。

●NPO法人冒険の鍵クーン

(理事長／村田君子)

子どもたちに自然と触れ合う機会を提供するとともに、自然環境に配慮した自然体験活動を提案・提供し、併せて人と自然が共存する社会づくりの啓発活動を行い、新しい自然と調和のとれた持続可能な利活用を進めることを通じて、地域の活性化に寄与することを目的に、平成16年6月設立。環境教育事業として森吉山を拠点にふるさとサマーキャンプや各種自然体験の実施、自然再生事業として親子で種まきから植樹苗を育てて植樹しています。

能代・山本地域

能代・山本地域「元気なふるさと秋田づくり顕彰事業」の受賞団体

●心といのちを考える会(会長／袴田俊秀)

住民同士の気軽な交流の場を提供し、昔ながらの「地域のつながり」を活用し、自殺予防等啓発活動を推進しています。

●おらほの産科小児科を守る会

(代表／大谷美帆子)

安心して出産ができ、子どもが受診できる環境づくりを作りたいとの思いから、医師に対する感謝の気持ちを再認識し、産科小児科の実情を見つめ直して自分たちに何ができるかを考えて活動しています。

情報あらかると

イベント情報

大館市 春の読み聞かせ会

【日時】3月18日(金)10:30~11:30

【会場】大館市立中央図書館(大館市宇谷地町)

【内容】読み聞かせサークル「おはなしの森」によるお話しです。

【参加費】無料

☎大館市立中央図書館

TEL.0186-42-2525

大館市 第6回ユニちゃん祭り

【日時】3月21日(月・祝)

10:00~14:30

【会場】北部シルバーエリア(大館市十二所)

【内容】チャレンジ・ザ・のりまきin北部エリア、無料健康チェックコーナー、健康ニューススポーツチャレンジ、福祉施設授産品等の販売、ゆるぎやら着ぐるみ大集合、フリーマーケットほか

【入場料】無料

【共催】陽気な母さんの店

☎北部シルバーエリア(主催)

TEL.0186-47-7070

能代市 災害時の母乳育児

【日時】3月25日(金)10:00~13:00

【会場】能代市南部公民館(能代市河戸川)

【内容】災害時の子育てについて:被災食(ハイゼックスシートによる)を作りながら話し合います。

【参加費】500円

【定員】20人(子連れ参加できます、定員になり次第締切)

☎申込:母乳育児サークル ミルキーハグ(主催)

TEL.090-4450-2114(甲谷)

能代市 第146回例会 アンディ先生のストリートマジック

【日時】3月29日(火)

18:45開場 19:00開演

【会場】能代山本広域交流センター

【内容】楽しいマジック。会員になって一緒に楽しい時間を過ごしませんか。

【参加費】会費(入会金300円、月会費1,000円大人・子ども同額、4才未満無料)

☎申込:能代おやこ劇場(主催)

TEL&FAX.0185-54-5877(火・金)

10:00~12:00

上記以外はTEL.090-7566-4197

(代表/田中)

お知らせ

企業の社会貢献活動に関する調査報告

県北64企業の取り組み紹介

秋田県では、県内企業の社会貢献活動に関する調査※を行っています。今年度は、CSR支援員を県北・県央・県南の3地区各1名を配置し、調査並びにNPOとの協働を推進しています。県北では、64企業の皆様にご協力いただきました。各企業の調査内容は遊学舎(秋田市)内の企業プラザで閲覧できるほか、秋田県市民活動情報ネット内企業プラザ「22年度CSR活動調査」にてご覧になれます。

<22年度CSR活動調査>

<http://www.akita-kenmin.jp/npo/index2.asp>

※21年度より、社会の一員としての責任を果たすために地域課題の解決に取り組んでいる企業の活動実態を明らかにすることで、ほかの企業の取り組みの参考になること、また、NPOとの連携のきっかけになることを狙い実施しています。

☎NPO法人秋田県北NPO支援センター NPOよろず支援員(CSR担当/羽澤) TEL.0186-49-8553

「元気なムラづくり“チャレンジ”情報in AKITA」発信中

平成21年度にスタートした元気ムラチャレンジ。秋田県内各地で地域の特色を活かした元気ムラづくりが活発に行われています。

今回、チャレンジ情報に「心に残る“元気ムラチャレンジ”名言集」がご紹介されていますので、県ホームページをご覧ください。

☆名言紹介(一例)

「このまま何もしないで限界をむかえることはあり得ない」

「やらなければ、行動しなければ、何も始まらない」

☎秋田県企画振興部地域活力創造課 活力ある農村集落づくり推進チーム(愛称:元気ムラ推進チーム)

TEL.018-860-1215

美の国あきたホーム>組織別案内>企画振興部>地域活力創造課活力ある農村集落づくり推進チーム>元気なムラづくり“チャレンジ”支援>平成22年度の元気ムラチャレンジ

助成金情報

社会福祉振興助成

【助成対象・助成対象額】

○福祉活動・社会参加促進活動支援事業(福祉活動:上限300万円、社会参加促進活動:上限設定なし) ○地域連携活動支援事業(上限700万円) ○全国的・広域的ネットワーク活動支援事業(上限設定なし)

※1事業で50万円に満たない場合は応募の対象となりません。

【応募締切】2011年4月15日(金)必着

☎独立行政法人福祉医療機構

助成事業部支援課

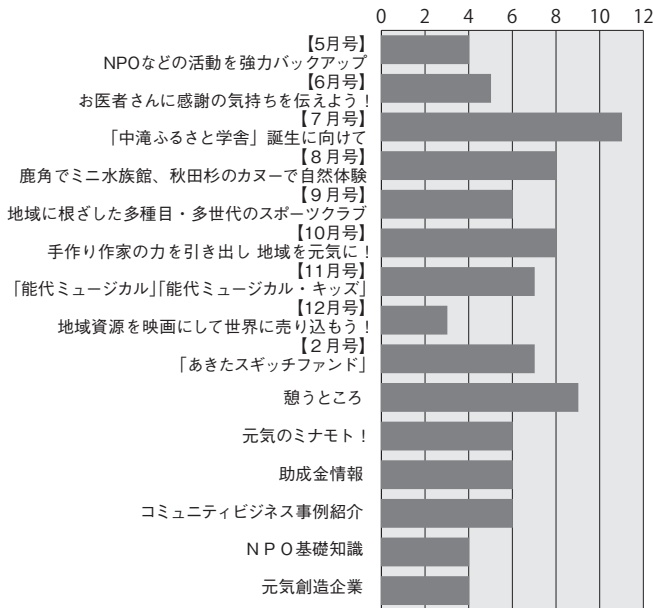
TEL.03-3438-9945-9946

アンケートにご協力いただき ありがとうございました!

2月号に同封したアンケートの結果についてご報告します。
今回はボランティア団体の皆様、企業の皆様からのご回答が多く、関心をもっていただいていることがわかりました。

☆興味深い活動として

一番多かったのは、「7月号／「中滝ふるさと学舎」誕生に向けて」でしたが、ほかのどの活動にも多くの関心が寄せられていました。



☆今後取り上げてほしい市民活動団体・企業等、話題、意見について

・公民館を利用したボランティア活動の取り組み ・スローフード、マクロビオテック、食育に取り組む人 ・若者会議から生まれた活動紹介(上小阿仁、三種) ・地域おこし協力隊について(活動内容) ・ボランティアについて(登録方法など) ・道の駅でしか買えない物など ・農家レストラン ・身近な市民活動紹介 ・NPO法人ふじさと元気塾 ・NPO法人森吉山 ・ゼロダテ ・ちいきすこたま元気会 ・市町村の図書室(館)運営にボランティアがどのように関わっているか。その状況を教えていただきたい。 ・市民団体関係の業務をするようになって初めてこの情報誌を知りました。とても面白く興味を持ってました。A4紙1枚の両面印刷でフリーペーパーのように店舗に備え付け、広く市民の手に届くようにしたらどうでしょうか。内容は本当に充実しており、勉強になります。限られた人だけではもったいないです。 ・本当によくまとまっており感心します。色々な情報を今後ともよろしく。

☆必要とする支援について

インターネットでの情報発信、助成金申請、NPO法人設立等、会計・経理、団体運営、企業とNPOのつながりを創りたい、それぞれに必要なとされていることがわかりました。

貴重なご意見をありがとうございました。今後の事業に反映させていただきたいと考えております。



秋田県市民活動情報ネット

秋田県の市民活動団体の情報が満載!
<http://www.akita-kenmin.jp/npo/index2.asp>



市民活動団体等の支援

- ◆打ち合わせ・会議スペース ◆コピー機・印刷機の活用
- ◆インターネット、掲示板の活用 ◆図書・関係資料

※北部男女共同参画センターでは上記の利用ができます。利用内容によって料金がかかる場合がありますので、詳しくはお問い合わせください。

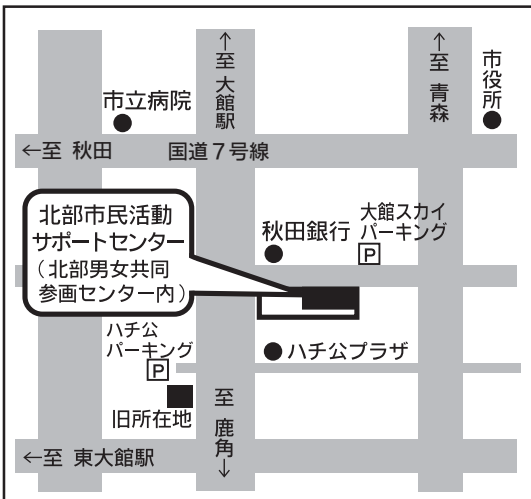


情報を募集中!

イベント・活動情報など掲載記事を募集しています。お気軽にご連絡ください。



《編集後記》 アンケートでは、お忙しいにも係わらずご回答いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。とても感激して、これからの大きな励みとなりました。また、ご覧の皆様、どうぞ忌憚のないご意見をお待ちしております。(4月号はお休みです)



「んだすな」には、人と人が願いを共感し、協力し合えたらという想いが込められています。

平成23年3月10日発行

発行：秋田県企画振興部地域活力創造課

〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1

TEL.018-860-1245 FAX.018-860-3873

編集：北部市民活動サポートセンター

〒017-0842 秋田県大館市字馬喰町48-1

TEL.0186-49-8553 FAX.0186-49-8589

<http://www.akita-kenmin.jp/north-support-center/>

E-mail angec1@io.ocn.ne.jp

○北部市民活動サポートセンターは秋田県から委託を受けて特定非営利活動法人秋田県北NPO支援センターが運営しています。 ○この印刷物は1,500部作成し、印刷経費は1部当たり23.3円です。